

平成25年度

シ ラ バ ス

桐生大学

別科 助産専攻

# 平成25年度 シラバス

科目名	助産学概論		担当者	鈴木由美 松原直樹	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	助産とはなにか、その本質と意義、助産の歴史、助産の対象等の理解を基盤に、専門職としての助産師の業務、責務、倫理、役割への認識を深める。また助産師活動や助産師と教育・研究などについて教授する。教育、助産の歴史などを通して母子保健の動向についてグループワークにてまとめる。							
学習目的	助産の基本的理念、普遍的原理原則の理解をふまえて、助産師活動に対する現状と将来を展望できるように、母子保健の動向、助産や助産師活動の歴史、法的根拠、教育、倫理、研究活動の側面から理解する。							
学習目標	助産の本質、意義について基本的理念、普遍的原理原則の視点で理解する。助産と助産師活動に対して必要な姿勢について考える事ができ、将来展望がもてる。専門職助産師のあり方について学問的、法的、倫理的、国際的に理解する。母子保健の歴史と現状について助産師活動と関連付けて理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	助産の概念	助産の定義、意義、本質、対象、将来、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ					鈴木由美	
第2回	助産師を支える理論と助産学	助産に関係する概念、ジェンダー、ICM（国際助産師連盟）について					鈴木由美	
第3回	助産師に関わる関係法規（その1）	医療法、保助看法、医師法、母子保健法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、就業規則					松原直樹	
第4回	助産に関わる関係法規（その2）	助産師業務、職制、身分に関わる法律、助産師の義務と責任とその訴訟事例など					松原直樹	
第5回	助産師と倫理	倫理に係わる用語の定義、倫理を学ぶ意義、目標、内容、倫理と法、倫理的問題、個人・専門職としての立場・義務・責務、価値観、ICM綱領					鈴木由美	
第6回	助産の歴史	古代から江戸時代までの助産の変遷推移 明治～昭和初期（第二次大戦まで）の助産の変遷					鈴木由美	
第7回	助産師教育の変遷	我が国における助産師教育の歴史、諸外国における助産師教育					鈴木由美	
第8回	母子保健の動向と助産の歴史	助産の歴史と母子保健の歴史、母子保健の動向と諸制度、現代の母子保健(GW)					鈴木由美	
教科書	助産学講座1 助産学概論 医学書院、我が国の母子保健、母子保健の主なる統計（母子保健事業							
参考書	国民衛生の動向2012年、母子保健ハンドブック（母子保健事業財団）							
成績評価	単位記 60 点以上出席・客観的試験（80％）、レポート（20％）による。							
履修のポイント オフィス・アワー	助産とはなにかを知ること。分娩介助は助産技術の核ではありますが、助産の全てではありません。助産師活動について基本的理念、普遍的な原理原則を知り、助産師としての基本姿勢を学ぶところで終了します。 (鈴木) 基本的に他の講義がない時は応じられます。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	人間の性と生殖		担当者	黒澤やよい	学科	別科助産 専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
授業の概要	いのちを育む機能を持つ女性のからだの構造と機能を理解し、健やかな発達と豊かな母性の発展をサポートするための知識を教授する。							
学習目的	人間の性と生殖について身体的、心理・社会的に理解を深め、助産師として必要な知識を習得する。							
学習目標	①女性の性・生殖に関する生理的側面について理解する。 ②女性の健康を守るためのセルフケアと健康管理方法について学ぶ。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	女性の体の仕組み①		生殖器の解剖と性差、分娩との関連性					
第2回	女性の体の仕組み②		性周期とホルモン・妊娠とホルモン					
第3回	妊娠成立の機序と胎児の機能		妊娠の成立 胎児と胎盤機能					
第4回	性科学		性科学の概念とセクシュアリティ 性カウンセリング・妊娠と性行動					
第5回	女性のフィジカルアセスメント		内診・膣鏡診・細胞診・性感染症検査 超音波検査・栄養価評価					
第6回	ライフサイクルとセクシュアリティ		思春期・成熟期 中高年期の女性の特徴とケア					
第7回	性と生殖をめぐる問題①		不妊・DV(ドメスティックバイオレンス) 月経障害					
第8回	性と生殖をめぐる問題②		セクシュアルヘルスとリスク回避行動 性教育・家族計画と避妊法					
教科書	助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院							
参考書								
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。				
履修のポイント	単位認定は60点以上							
オフィス・アワー	9～18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

# 平成25年度 シラバス

科目名	妊娠・分娩・産褥の生理		担当者	鈴木由美 黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	妊娠・分娩・産褥の生理的経過を教授し、一連の母子に起こる生理的変化に対応するための基盤となる知識を教授する。また正常経過を知る事により、正常から逸脱する可能性があること、逸脱していることがわかるための知識を学ぶ。							
学習目的	看護教育完了後、助産をするうえで必要な解剖、生理的な知識を理解する。正常経過をたどる妊産婦のケアに際して、その根拠となる解剖、生理的な知識がわかることを目的とする。また解剖生理的な知識のなかで、身体的な経過が正常か異常かの見極めができる知識の習得を目的とする。							
学習目標	マタニティサイクルにおける妊娠分娩産褥の生理的な変化について学ぶ。(新生児については新生児の生理に譲る)							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	助産ケアに活かす解剖生理学、妊娠の概念、成立、維持		助産ケアに活かす解剖生理学的機序 妊娠成立後の母体の変化 全身的、局所的变化、 ホルモン動態、発生、臨界期等				鈴木	
第2回	妊娠経過に応じた母体の変化		妊娠時期に応じた母体の生理的変化と正常な妊娠経過(精神的な変化等も含む)について				鈴木	
第3回	胎児の成長と発達、発育 胎児付属物等について		胎芽の発生から、器官形成、成長、発育の評価と検査などからみる胎児の正常発育について				鈴木	
第4回	分娩の生理 (1)		分娩の概念・分娩の3要素				黒澤	
第5回	分娩の生理 (2)		分娩の経過と所要時間・分娩の機序①				黒澤	
第6回	分娩の生理 (3)		分娩の機序②、分娩が母体・胎児に及ぼす影響				黒澤	
第7回	産褥期の生理 (1)		産褥期の身体的変化、全身的变化				木村	
第8回	産褥期の生理 (2)		退行性変化、進行性変化及び分娩後の性周期の再開まで				木村	
教科書	助産学講座 1 助産診断・技術学Ⅱ、プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他							
参考書	妊娠期、分娩期・産褥期、医学書院、最新産科学、正常編 文光堂							
成績評価	単位認定60点以上 この分野の国家試験を意識した内容での筆記試験とする。							
履修のポイント	知識を暗記するのではなく、診断・ケアの根拠となるように学ぶこと。							
オフィス・アワー	平日の16時半以降							

# 平成25年度 シラバス

科目名	ハイリスク妊娠・分娩・産褥		担当者	山口典利	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年		曜日 時限	
授業の概要	母子保健環境は各方面の努力、進歩によって改善されてきた。乳児死亡率、早期新生児死亡率も世界のトップクラスにあり、低率である。しかし母体死亡率については更に努力を重ねる必要がある。出産は生理的なものとはいえ、妊娠中に起こりうる異常について学び、母子ともに安全な出産に臨めるよう十分な知識を習得しなければならない。以下の授業テーマに基づき講義をする。							
学習目的	この講義では周産期におけるハイリスク（妊娠、分娩、産褥の異常）について医学的な知識を学ぶことを目的とする。							
学習目標	妊娠、分娩、産褥の異常及び主な合併症、疾患の原因、症状、診断、治療、予防対策について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	妊娠の異常 妊娠持続期間の異常		妊娠悪阻、子宮外妊娠、頸管妊娠 流産、早産、過期産、抗リン脂質抗体症候群、頸管無力症、絨毛膜羊膜炎					
第2回	妊娠高血圧症候群		P I H、子癇、H E L L P、常位胎盤早期剥離					
第3回	胎児及び附属物の異常 I		前置胎盤、癒着胎盤、胞状奇胎、子宮内胎児死亡 子宮内胎児発育遅延、羊水過多、羊水過少					
第4回	胎児及び附属物の異常 II		多胎妊娠、P R O M、切迫早産、血液型不適合妊娠 急性虫垂炎、婦人科疾患合併症					
第5回	合併症妊娠		呼吸器、循環器、血液、膠原病、甲状腺、精神科 糖代謝異常合併妊娠					
第6回	母子感染症		風疹、サイトメガロ、伝染性症紅斑、水痘、A T L 単純ヘルペス、B型肝炎、C型肝炎、H I V、梅毒 G B S、トキソプラズマ、クラミジア					
第7回	分娩の異常		分娩進行に関係する異常 微弱陣痛、過強陣痛、C P D、胎位異常 胎勢異常、進入の異常、肩甲難産 臍帯の異常、胎児機能不全、仰臥位低血圧症候群 分娩時裂傷（子宮破裂、膣会陰裂傷、血腫） 子宮内反症、弛緩出血、羊水塞栓、産科D I C					
第8回	産褥の異常		産褥熱、血栓症、産褥精神障害					
教科書	助産学講座1 助産診断・技術学Ⅱ、妊娠期、分娩期・産褥期、医学書院、メディックメデイア「病気が見える」（産科編）、プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上出席日数、試験をもって評価する。							
履修のポイント	臨床現場に沿ったものを講義していきたい。重要な点は講義のなかで指摘するつもりである。							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

科目名	新生児・乳幼児の生理と病態		担当者	針谷 晃	学科	別科専攻科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1	学年		曜日	
			(時間)	15			時限	
授業の概要	<p>新生児期における助産師の役割は、生まれてきた新生児の一人一人にふさわしい医療を提供し、家庭での生活がスムーズに始まるよう協力することにあると思います。この授業では、新生児期に発症する疾患の病態生理について説明します。</p>							
学習目的	<p>この講義では、胎児、新生児期の生理、新生児期の疾患に関する理解や一次医療機関における適切な対応、育児に関する基本的知識の修得を行うとともに、疾病を有する児の家族への対応や新生児医療における倫理について学ぶことを目的としています。</p>							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の生理を理解する。</li> <li>・新生児に起こりやすい疾病の病態と治療について理解する。</li> <li>・新生児蘇生の技術を学ぶ。</li> <li>・遺伝的疾患とその家族への対応について学ぶ。</li> </ul>							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	新生児学総論		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の定義、分類、新生児医療における用語</li> <li>・発育・発達とその評価</li> </ul>					
第2回	新生児診断学 新生児の管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の診察法、検査について</li> <li>・各種モニター機器、主要な異常所見とその対応、新生児の養護と管理、家族への援助、母子相互作用、医療事故、新生児医療と医の倫理</li> </ul>					
第3回	新生児の生理 新生児の呼吸器疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体温調節と保温、栄養の基礎と臨床、水一電解質バランス</li> <li>・新生児の呼吸器疾患（呼吸窮迫症候群、黄疸、消化器疾患、胎便吸引症候群、新生児一過性多呼吸、新生児慢性肺疾患、肺炎、気胸・気縦隔、横隔膜ヘルニア）について、</li> </ul>					
第4回	新生児蘇生法実習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蘇生法の実習</li> </ul>					
第5回	新生児の循環器疾患 黄疸、消化器疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児期に発症する循環器疾患（チアノーゼ型先天性心疾患、新生児遷延性肺高血圧症）</li> <li>・黄疸をきたす疾患（特発性黄疸、溶血性疾患、遷延性黄疸、先天性胆道閉鎖症）、新生児期の消化器疾患</li> </ul>					
第6回	血液疾患 免疫・感染症		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多血症、新生児メレナとビタミンK欠乏性出血症について</li> <li>・新生児期の重要な感染症（TORCH症候群、敗血症、ウイルス感染症、B型肝炎母子感染予防）</li> </ul>					
第7回	神経疾患 内分泌・代謝系疾患		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児期の神経疾患（新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、頭蓋内出血、髄膜炎）について</li> <li>・先天代謝異常スクリーニング、低血糖、先天性副腎皮質過形成、クレチン症等について</li> </ul>					
第8回	遺伝カウンセリングについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・奇形と奇形症候群、遺伝カウンセリング</li> </ul>					
教科書	『新生児学入門第3版』仁志田博司著、助産診断・技術学Ⅱ[3]「新生児期・乳幼児期」 医学書院							
参考書	「日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく 新生児蘇生法テキスト」改訂第2版 監修 田村正徳							
成績評価	単位誌 60 点以上出席重視、レポート提出60点以上を合格とする。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

## 平成25年度 シラバス

科目名	母子の栄養科学		担当者	旭久美子	学科	別科	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位	1	学年		曜日	
			(時間)	15時間			時限	
授業の概要	妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について講述する。特に妊娠期・授乳期は生涯にわたる基礎作りのステージであるので、母子の栄養について学習する。また、栄養アセスメントに必要な食事摂取基準(2010年度版)についても講述する。							
学習目的	助産師として妊婦・授乳婦に指導する場面で、必要な母子の栄養についての基礎知識を学習する。							
学習目標	1. 母子のアセスメントを踏まえて、適切な栄養について理解する。 2. 食事摂取基準を理解する。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	母子の栄養1	妊産婦の食事バランスガイド						
第2回	母子の栄養2	妊婦の病態と栄養						
第3回	母子の栄養3	妊婦の病態と栄養						
第4回	母子の栄養4	産婦の病態と栄養						
第5回	母子の栄養5	褥婦の病態と栄養						
第6回	母子の栄養6	乳幼児の栄養・思春期の栄養						
第7回	食事摂取基準	食事摂取基準(2010年版) (1)						
第8回	食事摂取基準	食事摂取基準(2010年版) (2)						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	応用栄養学(第3版) 灘本知憲・宮谷秀一編集(化学同人)							
参考書	食事摂取基準(2010年版)							
成績評価	単位認定 60 点以上前期定期試験(定期試験70%, 小テスト30%で評価する)							
履修のポイント	復習と予習を行なうこと。小テストで重要な事柄を修得すること。							
オフィス・アワー	月・火・木曜日の昼休み及び5限目							

平成25年度 シラバス

科目名	母性父性の心理・社会学		担当者	篠原貴子	学科	別科	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位	1単位	学年		曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	女性のライフサイクルにおける大きな節目となる妊娠前後の女性が抱える問題に関して、心理学的社会的側面から検討する。特に、母子関係のあり方を中心として、女性のメンタルヘルス、父親の役割と育児への関わり方、子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、カップル関係、育児支援に関する問題を取り上げると共に、近代以降の家族の歴史についても扱う。							
学習目的	母性・父性に関する知識を学び、妊娠婦として女性の心理的特徴・社会的役割についての理解を深め、助産師としての実践に応用できることを目的とする。							
学習目標	母性・父性に関する理解を深め、母子関係の形成に生じる心理学的理論や問題の背景に対する知識を学び、それらの問題に対する実態を認識、把握することで、問題解決に向けた支援のあり方を考える力を培う。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	イントロダクション		母性・父性の研究、女性のライフサイクル					
第2回	女性のメンタルヘルス		妊娠と出産をめぐるメンタルヘルス					
第3回	親子関係の問題Ⅰ		母子関係の理論					
第4回	親子関係の問題Ⅱ		母子関係における問題と父親の役割					
第5回	家族の問題		子どもの虐待、カップル関係					
第6回	家族と社会		近代以後の家族の歴史					
第7回	親子関係の援助		問題の発見と子育て支援					
第8回	まとめ		課題と展望					
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院							
参考書	授業時に随時紹介							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験、授業中の態度、リアクションペーパーで総合評価を行う。							
履修のポイント								
オフィス・アワー								



# 平成25年度 シラバス

科目名	助産診断・技術学概論		担当者	黒澤やよい	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	診断の概念、医学診断・看護診断と助産診断の関係について教授する。また技術とは何か、その概念及び看護技術との相違点、助産師として法的に業務範囲で用いることができる診断、技術について教授する。技術はEBMの視点から行われるべきものであり、診断に裏付けされたものであることを学ぶ。							
学習目的	助産診断の基礎知識、マタニティサイクルにおける助産技術の土台となる概念を学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断が助産技術、保健指導の土台となることを理解する。</li> <li>2. 助産診断は助産師の専門職性を基盤にウェルネス型診断に基づいている事を理解する。</li> <li>3. 助産診断の構成要素と助産過程の展開のプロセスを理解する。</li> <li>4. 助産技術学が助産診断、EBMに基づくものであることを理解する。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	助産診断・技術学について	助産診断技術学とは、成り立ち、意義について 助産診断の範囲、職能との関連について						
第2回	助産診断の概要	助産診断の概念、定義、助産診断の範囲について						
第3回	助産診断類型	診断類型と診断過程（助産過程）看護理論と看護診断、						
第4回	助産技術学の概要	助産技術の概念と意義、専門職が有する技術の要件						
第5回	基礎助産技術	基礎助産技術の基本、教科内容 (マタニティサイクルにおける診察技術、生活行動援助技術、保健指導技術、救急処置等)						
第6回	助産技術学の実践過程	助産過程（助産診断、計画立案から実施、 評価に至るまでの過程）						
第7回	助産における人間観の とらえ方について	助産学における人間観と関連する諸概念、支持理論						
第8回	助産技術の実際	助産技術における演習物品、演習室の使用方法、取り 扱いについての姿勢等					GW	
教科書	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ							
参考書	今日の助産、北川真理子、南江堂							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席状況、定期試験で60%以上の得点で単位認定とする。							
履修の ポイント	対象者のステージに則した助産過程を展開する意義また対象者のステージに応じた看護、助産技術を把握し、それぞれの時期の対象者の助産過程ができるための基本とする。助産診断と助産技術を切り離すことはできない。							
オフィス ・アワー	在室表示があつて時間の都合があつたとき。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	助産診断学		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、藤枝亜由美	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	周産期それぞれに時期に応じた診断の方法を教授し、健康レベルに応じた助産過程を展開する。それぞれの時期で大切な観察の視点、情報の解釈と統合の方法、ケアの展開、ケアを実施した場合の評価、考察についても触れ、次のケアの展開を考える。							
学習目的	講義ではロールプレイ、ペーパーペイシエントの事例を通して診断、ケアプランが立案できる。ケアプランを実施した場合の実例をもとに、評価、考察をし、次のプランへの修正、振り返りができる。 それぞれの時期に則した必要な観察、ケアの視点を理解する。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩、産褥・新生児期それぞれの助産診断の基礎を学ぶことができ、一連の助産過程を展開できる。</li> <li>2. 正常を逸脱する可能性がある場合、必要な保健指導を企画・展開できる。</li> <li>3. 正常を逸脱した場合でも共同問題としての看護過程を展開することができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	妊娠期の観察	妊娠初期の対象者の観察について					鈴木	
第2回	妊娠期の情報収集	初診時(妊娠初期)の情報収集の聴取について					鈴木	
第3回	妊娠期の情報収集	情報収集用紙の作成(GW)					鈴木	
第4回～ 第9回	妊娠初期の助産過程(初期)(中期)(後期)	妊産婦期の助産過程(GW)の展開					鈴木	
第10回	妊娠末期の助産過程	妊娠末期の助産過程(講義、GW)					鈴木	
第11回	分娩期の助産診断について	正常分娩の情報収集と経過診断					黒澤	
第12回		正常分娩の健康生活診断					黒澤	
第13回	分娩期の助産過程の展開(1)	正常分娩の事例の統合、分析(初産婦・経産婦)					黒澤	
第14回		正常分娩の事例の統合、分析(討議・講義)					黒澤	
第15回	分娩期の助産過程の展開(2)	正常分娩のケア計画の立案					黒澤	
第16回		正常分娩のケア計画の実践と評価について					黒澤	
第17回	正常逸脱が予測されるケースの助産診断	正常を逸脱する可能性のある事例について～前期破水、微弱陣痛～					黒澤	
第18回		正常を逸脱する可能性のある事例について～促進、誘発～					黒澤	
第19回		母体合併症(妊娠高血圧症・妊娠性糖尿病)					黒澤	
第20回	正常を逸脱したケースの助産診断	分娩経過中の逸脱(回旋異常、胎児胎盤機能不全)					黒澤	
第21回		分娩経過中の逸脱(弛緩出血・頸管裂傷・IV度裂傷)					黒澤	
第22回		異常分娩(多胎、IUGR、骨盤位)等の診断とケア					黒澤	
第23回	産褥期の助産診断	産褥期の助産診断					木村	
第24回	産褥・新生児期の助産診断	産褥期・新生児期の助産診断					木村	
第25回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断 紙上事例の提示					木村	
第26回～ 第28回	母子を統合した助産診断	助産過程の展開(産褥期)GW					木村	
第29回～ 30回	NICUにおける新生児のケア(1)～(2)	正常を逸脱した新生児のケアの実際を学ぶ					財満亜由美	
教科書	助産学講座5,6,7,8助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他 マタニティアセスメントガイド 真興交易、							
参考書	今日の助産、北川真理子、南江堂							
成績評価	単位認定 60点以上 国家試験出題基準も考慮した筆記試験による。							
履修のポイント	助産学実習で必須となる思考過程であり、ケアに必要な判断力を養う科目である。							
オフィス・アワー								

# 平成25年度 シラバス

科目名	助産技術学		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、矢島英彦ほか	学科	別科助産専攻	開講期
区分	実践領域	必修	単位	2	学年		曜日
			(時間)	(60)		時限	
<b>授業の概要</b>	周産期の助産技術助産診断とケアに必要な技術をEMB、NBMの視点から演習を通して習得する						
<b>学習目的</b>	妊娠期、分娩、産褥期、新生児期の助産技術の基本を学び、EBMを理解し、実践できる。						
<b>学習目標</b>	1. 妊娠期では妊婦の健康診査に必要な助産技術、分娩期では産婦の分娩介助を中心とした技術、産褥期、新生児期では産後の母体、新生児観察のために必要な助産技術を習得する。 2. それぞれのEBMを理解し、助産診断に基づいて実践できる。 3. 妊娠期では超音波断層撮影を体験する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	主 題		授 業 内 容			備 考	
第1回 (妊1)	妊婦の健康診査と観察・技術		健康診査に必要な観察・技術 (問診・外診・NSTの装着について)			鈴木	
第2回 (妊2)			生活を整える技術(着帯・姿勢・動静) 骨盤位矯正法				
第3回 (妊3)							
第4回 (妊4)							
第5回 (妊5)	妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について	矢島				
第6回 (妊6)	妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について	矢島				
第7回 (分1)	分娩期の診察技術(1)	産婦の観察について；外診、内診技法その他	黒澤				
第8回 (分2)	分娩期の診察技術(2)		黒澤				
第9回 (分3)	分娩期の観察技術	胎児心拍モニタリングの実際と判読方法	黒澤				
第10回 (分4)	分娩経過とケア	一連の分娩経過と技術 (講義・DVD)	黒澤				
第11回 (分5)		分娩介助法 (演習用DVD)、分娩環境整備と物品	黒澤				
第12回 (分6)	分娩介助の実際	デモンストレーション (解説)	黒澤				
第13回 (分7)		デモンストレーション (連続)	黒澤				
第14回 (分8)		技術演習 (グループ別)	黒澤				
第15回 (分9)		分娩期の産痛緩和法	呼吸法とリラクゼーション、補助動作、マッサージ他	黒澤			
第16回 (分10)	フリースタイル分娩	分娩経過と体位 (DVD、講義)	黒澤				
第17回 (分11)		フリースタイル分娩の実際 (演習)	太田記念病院スタッフ				
第18回 (分12)	産道の損傷への対処とケア	分娩期の縫合技術 (講義・演習)	黒澤				
第19回 (分13)			黒澤				
第20回 (分14)	異常分娩と緊急時の対応	鉗子分娩・吸引分娩・骨盤位分娩・双胎分娩・裂傷	黒澤				
第21回 (褥1)	産褥期の診断技術	全身の回復の診断	木村				
第22回 (褥2)		乳房の観察と診断技術	木村				
第23回 (褥3)	産褥期の援助技術	授乳技術と乳房ケア	木村				
第24回 (褥4)		子宮復古の観察と対処	木村				
第25回 (褥5)	新生児の診断援助技術 (1)～(2)	新生児の観察技術・計測	木村				
第26回 (褥6)		沐浴・哺乳	木村				
第27回 (褥7)	産褥期の援助技術	子宮収縮測定、ラッチオン、ポジショニング、乳房マッサージ (演習)	木村				
第28回 (褥8)			木村				
第29回 (褥9)	新生児期の援助技術	新生児の身体計測、沐浴、哺乳介助 (演習)	木村				
第30回 (褥10)			木村				
<b>教科書</b>	助産学講座5, 6, 7, 8 助産診断・技術学Ⅱ、正常分娩の助産術 医学書院 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他						
<b>参考書</b>	助産師のためのフィジカルエグザミネーション、大石時子 医学書院						
<b>成績評価</b>	単位認定	60	点以上	実技テスト (分娩介助) と筆記試験			
<b>履修のポイント</b>	助産学実習で用いる技術として必修項目である。演習時は白衣着用のこと。						
<b>オフィス・アワー</b>							

# 平成25年度 シラバス

科目名	保健指導技術概論		担当者	鈴木由美	学科	別科助産 専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	健康問題に関連した保健指導、相談指導、学級活動の基本となるコミュニケーション、相談技法、教育技法等の概念、意義を教授し、集団指導、個人指導の企画をするために必要な基礎を教授する。また保健指導における助産師に求められる姿勢について考える。							
学習目的	助産師活動における個人指導、集団指導の概念を理解し、適切な方法での企画、コミュニケーション技法を習得する。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健指導の理論、目的、方法について理解する。</li> <li>2. 個人指導において個別性を考慮したインタビュー方法を学び、情報収集をすることができる。</li> <li>3. 個人指導の特徴が理解でき、妊娠中期～産褥1ヶ月までの指導計画ができる。</li> <li>4. 集団指導の特徴が理解でき、集団指導（出産準備教室その他）を企画展開する技法を修得できる。</li> <li>5. 対象者の合わせた保健指導の指導案、媒体など一連の保健指導過程を学ぶ。</li> <li>6. 助産師、指導者として対象者に対する指導におけるコミュニケーション、礼節を踏まえた関わり方について考えることができる。</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	保健指導とは何か	健康教育、保健行動、行動変容、動機付けについて						
第2回	教育・相談、指導のコミュニケーション技術	保健指導における人間関係、様々な教育技法、コミュニケーション技術、礼節について、助産師の態度、姿勢						
第3回	集団指導と集団指導	それぞれの特徴とメリット、デメリット						
第4回	集団指導の展開について	集団指導のリーダーシップ、教育技法、場の設定について、5W1Hに基づく企画、目標の設定、展開の方法、及び評価方法について						
第5回	個人指導の展開について	個別性、個別のアプローチ、個別性の把握、情報収集の方法、インタビューについて						
第6回	個人指導のための技術	個人指導の特徴と方法（相談技術、カウンセリング、電話相談、家庭訪問等 個人背景のアセスメントに基づく個人指導の企画）						
第7回	指導企画の方法	指導企画、指導案の書き方、媒体の作り方						
第8回	指導媒体の作り方	保健指導における媒体の作り方、効果的な教材について						
教科書	助産学講座5 助産診断・技術学 I、							
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導（妊娠期）鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導（産褥期）鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席状況、グループワークでの積極性、協調性、基礎理論の習得状況を試験、レポートなどから評価する。							
履修のポイント	保健指導の指導案立案以前に企画をするところが非常に大切になる。特に集団指導の展開においてはこのことが理解していないと指導計画は成功しない。							
オフィス・アワー	在室表示があつて時間の都合がつくとき。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	保健指導技術		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期		
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日 時限			
授業の概要	ウェルネス志向に基づき、女性の生殖に関わる健康問題についての相談・教育・援助活動としての保健指導の実際を学ぶ。保健指導を実施するために必要な指導技法を学び、保健指導案の立案や集団指導の企画、運営、展開の演習を行う。最初に集団指導で展開するための方法を学び、次に助産過程事例に基づく個別性を考慮する方法について学ぶ。									
学習目的	助産師として必要な個人・集団指導の企画・展開方法を習得する。また対象者に応じて保健指導技術の方法を選択し、効果的に展開することができる。									
学習目標	1. 保健指導の企画、展開の方法を学び、対象者に応じた指導が実施できる。 2. 思春期、更年期等の女性の健康講座などを企画する方法を学ぶ。 3. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案を立案することができる。 4. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案に基づいて展開することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容					備 考			
第1回	初診時の問診	初診時における問診					鈴木			
第2回	情報収集の方法	情報収集の方法と生活体験GW					鈴木			
第3回	妊娠中期における保健指導	妊娠中期の保健指導の内容					鈴木			
第4回		(出産育児準備、体重管理、乳房ケア、バースプラン)					鈴木			
第5回	妊娠中期～後期における保健指導	妊娠中期～後期の保健指導の内容					鈴木			
第6回		(貧血予防、早産予防、日常生活の動静)					鈴木			
第7回	妊娠後期における保健指導	妊娠後期の保健指導の内容					鈴木			
第8回		(産痛緩和法、腹部増大に則した日常生活の工夫、バースプランの確認)					鈴木			
第9回	妊娠末期における保健指導	妊娠末期の保健指導					鈴木			
第10回		(分娩の近づいた兆候、入院の時期、産痛緩和の確認、家族の調整予定日超過への対処)					鈴木			
第11回	妊娠期における集団指導の展開 (模擬マタニティクラス)	模擬 出産準備教育 (両親学級/母親学級)					デ 別科教員			
第12回		モンストレーション								
第13回										
第14回										
第15回	産褥・新生児期における保健指導	分娩2時間後の居室指導					木村			
第16回		授乳指導・調乳指導					木村			
第17回		沐浴指導								
第18回		退院指導・受胎調節指導								
第19回		産褥体操・1ヶ月健診時の指導								
第20回		育児期の保健指導の方法と展開 (GW)							木村	
第21回										
第22回										
第23回										
第24回		母乳外来での保健指導							太田記念病院 スタッフ	
第25回	育児期の保健指導の方法と展開 (発表)					木村				
第26回						木村				
第27回	ライフサイクルにおける健指導～思春期～	保	思春期における保健指導、ピアカウンセリング、集団指導			黒澤				
第28回			講義・GW							
第29回	ライフサイクルにおける健指導～成熟期・更年期～	保	成熟期・更年期における保健指導カウンセリング							
第30回			講義・GW							
教科書	助産学講座5, 6, 7助産診断・技術学 I, II 医学書院									
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導 (妊娠期) 鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導 (産褥期) 鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院									
成績評価 履修の ポイント オフィス ・アワー	単位認定 60 点以上 筆記試験及び講義、グループワークにおける積極性等を考慮する。 助産学実習における個人指導、及び3月に集団指導を実践するための基礎となる内容である。									

# 平成25年度 シラバス

# 平成25年度 シラバス

科目名	地域母子保健		担当者	飯島恵子、笠原佳代	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	地域における助産師の活動を展開するために、国、都道府県、市町村における助産師の母子保健活動の歴史的な理解、また母子保健の動向等の理解を基本的基盤として、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開プロセス、関係機関・職種との連携・共同、個別支援、グループ・地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を通して学ぶ。(オムニバス形式)							
学習目的	助産師として地域の母子保健を推進するための基礎的知識を学ぶ。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の概念を理解し、地域で展開する母子保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 日本における母子保健の歴史的変遷の中で、母子保健をめぐる法律、制度、施策について社会の動きとあわせて理解する。</li> <li>3. 地域の特性に合わせた母子保健活動を展開するために、地域の特性やニーズを把握するためのアセスメント視点について理解する。</li> <li>4. 地域で展開されている母子保健活動の実際について、事例を通して理解する。</li> <li>5. 地域で生活している子どもと親を支援するための具体的な方法について理解する。</li> </ol>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地域母子保健活動の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域とは何か</li> <li>2) 地域で生活する子どもと親をめぐる現状</li> <li>3) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション</li> </ol>					飯島	
第2回	地域における母子保健活動のしくみ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子保健の歴史的変遷</li> <li>2) 母子保健施策の体系</li> <li>3) 母子保健活動を展開する場と人材</li> </ol>					飯島	
第3回	地域における母子保健活動の展開Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の特性と母子保健関連</li> <li>2) 地域特性のアセスメントとニーズの把握</li> </ol>					飯島	
第4回	地域における母子保健活動の展開Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で生活する子どもと親を支援する法律・制度・施策</li> <li>2) 関係機関・職種との連携・協働</li> </ol>					飯島	
第5回	地域における母子保健活動の実際Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健所における母子関連業務</li> <li>2) 市町村における母子関連業務</li> <li>3) あなたの町の母子保健活動(レポート課題)</li> </ol>					みどり市 笠原	
第6回	助産師による地域母子保健活動の実際Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域構成よりみた産褥期母子ケアにかかわる潜在助産師調査と活動計画の策定と実際</li> </ol>					みどり市 笠原	
第7回	地域における母子保健活動の実際Ⅱ～グループ支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グループ・地域組織活動</li> <li>2) 子育て支援システムの構築</li> </ol>					飯島	
第8回	これからの地域における助産師活動	小グループワークと全体討論					飯島	
教科書	助産学講座9 地域母子保健 医学書院							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 出席・客観的試験(80%)、レポート(20%)による。							
履修のポイント								
オフィス・アワー	5限は相談にも応じ、一緒に考えられるようお待ちしております。							



# 平成25年度 シラバス

科目名	助産学実習		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	11 (495)	学年		曜日	
							時限	
<b>授業の概要</b>	<p>産科棟実習においては正常が予測される妊産褥婦及び新生児を受けもち、一連の助産過程を通して援助を展開し、評価、考察を行い次のケアへとつなげる。特に分娩期においては10例の分娩介助を行い、それぞれの分娩、産褥、新生児などの助産過程が展開できることを目標とする。またそのうち1例は妊娠中期以降、可能な限り長期に受け持ち、産婦に合わせて分娩期に寄り添い、分娩介助後は退院迄及び1ヶ月健診までの母児の健康診査を行い、助産過程を展開する。</p> <p>NICUにおいては低出生体重児他何らかの正常逸脱をみる新生児を受け持ち、母子分離された状態からの母子関係構築の援助を行い、ケアの実際を学ぶ。また地域母子保健では家庭訪問や助産施設で実施している母子訪問などに参加し、地域母子保健の実際を学ぶ。一方で地域の妊婦とその家族を対象に集団指導を1クラス担当して実施する。</p> <p>*助産管理、助産業務及び助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、管理、調整の実際を学ぶ。</p>							
<b>成績評価</b>	<p>助産過程、分娩介助評価表、保健指導技術、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。単位認定60点以上</p>							



# 平成25年度 シラバス

科目名	助産研究		担当者	鈴木由美 黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期～ 後期
区分	総合領域	必修	単位 (時間)	1 (30)	学年		曜日 時限	
授業の概要	助産の視点から研究の意義を理解し、研究の一連の過程を体得する。この科目は通年であり、前期は講義から開始し研究計画を立案し対象者を設定し、模擬研究を実施する。そのさい学生同士で研究上の倫理に審査することを通して、研究に於ける倫理を検討する。また模擬研究では質的研究と量的研究の双方を体験し、データ収集、分析、考察、結果の順で体験する。助産学に貢献できる分野の研究（周産期のほか、助産師学生、助産学、歴史、ウィメンズヘルス等）を行う。入学当初から助産学に貢献できる研究的視野をもって受講する姿勢が必要である。またケーススタディについても触れ、自分が実習で体験した事例をもとに、一連の助産過程に即してレポートを書き、抄録作成や発表を体得助産学に貢献できる課題を見出し、倫理的に配慮しながら研究の一連の過程を体得する。ケース・スタディを通じて発表、抄録の作成も体験する。							
学習目的	助産学に貢献できる課題を見出し、倫理的に配慮しながら研究の一連の過程を体得する。ケース・スタディを通じて発表、抄録の作成も体験する。							
学習目標	1. 助産学に関連した研究の目的、意義がわかる。 2. 助産学における研究のテーマが設定できる。 3. テーマに沿った文献の検索ができる。 4. テーマに沿った目的が設定できる。 5. 適切な方法と対象選択の企画が正しい手続きを含めて実施できる。 6. 十分な倫理的対応が出来る。 7. 方法に基づいたデータ収集ができる。 8. 正しい手法でデータ分析を行い結果を抽出できる。 9. 結果に基づいて考察し、論文が作成できる。 10. ケーススタディの発表ができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	助産研究の概要	助産学概論と助産師について、助産における研究の意義、分類、企画、実施、報告の過程について					鈴木由美	
第2回	研究のプロセス	研究テーマの検討 助産学で扱う研究テーマについて					鈴木由美	
第3回	文献検索	文献検索の方法					黒澤やよい	
第4回	倫理的配慮について	研究者としての倫理的配慮について					黒澤やよい	
第5回	研究計画書について	グループで研究計画書を書く (GW)					黒澤やよい	
第6回	学生倫理委員会	グループによる倫理審査 (GW)					鈴木由美	
第7回	研究依頼の方法	依頼状、依頼の方法、手続き (GW)と模擬アンケート					鈴木由美	
第8回	データ処理について (1)	量的研究の集計について (主にExcel)					鈴木由美	
第9回	データ処理について (2)	模擬インタビューと逐語について					鈴木由美	
第10回	ケーススタディ	ケーススタディについて (1)					木村優子	
第11回		ケーススタディについて (2)					木村優子	
第12回	ケーススタディ発表	実習で関わった事例を通して学んだこととそのまとめ					鈴木、黒澤、木村	
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	助産学概論 医学書院「臨床看護研究サクセスマニュアル」竹内登美子、(株)アンファミエ。その他配布資料に基づく、わかりやすいケーススタディの進め方							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以下 研究計画、文献検索、データ収集などは模擬研究で行いケーススタディは1月下旬締切で評価とし、発表は1月下旬～2月上旬。							
履修のポイント	助産学に貢献できるテーマの設定、目的、方法、倫理的対応、研究計画書、計画書に基づいた実施、ケーススタディのまとめ方の習得							
オフィス・アワー	前期、後期共に金曜日の5限を予定しておきます。							

# 平成25年度 シラバス

科目名	不妊とケア		担当者	黒澤やよい 荒木康久 岡崎友香	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	晩婚化・少子化などの社会的事情により不妊治療への関心が高まる中で、不妊カップルの現況を理解し、個々の対応に求められる助産師の役割を学ぶ。							
学習目的	不妊症のカップルを取り巻く背景と不妊治療の現状を理解し、看護の方法を学ぶ。							
学習目標	1. 不妊カップルを取り巻く社会的状況を知る。 2. 不妊治療の実際を知る。 3. 女性のライフサイクル（特に不妊）に沿った看護ができる。							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	不妊治療をめぐる諸事情 ①		不妊症とは、不妊症の頻度と原因、不妊治療の方法				黒澤	
第2回	不妊治療をめぐる諸事情 ②		不妊治療に伴う身体的影響、経済的背景				黒澤	
第3回	不妊と生命倫理		子どもを生む選択・子どもを育てる選択				黒澤	
第4回	不妊症の検査と治療		不妊症診断のための各種検査と治療				荒木	
第5回	不妊症の治療		生殖補助医療の実際				荒木	
第6回	不妊症患者の背景		不妊患者の心理・社会的背景について				岡崎	
第7回	不妊症の看護（1）		受診前、初回受診時、検査時、治療時、治療終了時の看護				岡崎	
第8回	不妊症の看護（2）		不妊治療後の妊産褥婦の看護				岡崎	
教科書	助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院							
参考書	不妊治療ガイドンス 医学書院							
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。				
履修のポイント								
オフィス・アワー	9～18時の在室時。kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

# 平成25年度 シラバス

科目名	国際助産師論		担当者	芝山江美子 大久保麻矢	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域	選択	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	途上国の母子保健に関する問題と解決のための国際協力について教授する							
学習目的	途上国がかかえる母子保健に関する問題とその原因を理解し、解決を目指す国際協力と助産師が果たす役割を考える							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界の健康問題を理解する</li> <li>2. 途上国の小児保健の現状を知る</li> <li>3. 途上国のリプロダクティブヘルス/ライツを妨げる要因を理解する</li> <li>4. 母子保健向上のための国際協力と助産師の活動について知る</li> </ol>							
<b>授 業 計 画</b>								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	世界の保健医療問題	世界各国がどのような保健医療上の問題を抱えているか知り、助産師がどのような役割を果たすべきか考える						
第2回	世界の母子保健問題	ミレニアム開発目標 (MDGs) に掲げられた乳幼児死亡率の減少、妊産婦の健康の改善の達成を必要とする途上国の現状を学ぶ						
第3回	国際保健医療協力の概要	母子保健問題を解決するために行われている国際協力の概要を知る						
第4回	リプロダクティブヘルス/ライツと国際協力	1994年のカイロ会議以来注目されているリプロダクティブヘルス/ライツについて学び、途上国でどのようにこれを保障するか考える						
第5回	母子手帳に関する国際協力	妊産婦死亡や乳幼児死亡を減少させるために行われている母子健康手帳に関する国際協力について学ぶ。						
第6回	伝統的産婆と助産師	多くの途上国で出産に大きな役割を果たしている伝統的産婆 (TBA) について知り、助産師との違いについて考える						
第7回	性教育	人口問題、性感染症などの対策として思春期の教育が重要であり、各国で行われている活動を知る						
第8回	国際助産協力の実際	世界の人々に健康をもたらすための方策として提案されたプライマリ・ヘルスケアについて学び、地域保健活動の在り方を考える						
教科書								
参考書	国際看護学入門 (国際看護研究会編、医学書院)、Where there is no doctor (David Werner, Hesperian Foundatin)							
成績評価	単位認定 60 点以上 レポートで100%評価							
履修のポイント	母子保健は途上国の健康問題の主要な部分を占めており、助産師の視点から問題を考えること							
オフィス・アワー								